



多 摩 市 立 瓜 生 小 学 校

瓜生小だより

笑楽幸（小学校）



令和7年度12月号
令和7年12月1日

「あたりまえ？」

校長 池田 泰章

校庭の木々から彩り鮮やかな葉が離れ、木枯らしの中を舞っています。冬晴れの日差しの温かさが、子供たちを活気付けています。

帰る家がある、食べるものがある、着るものがある、これら全て「あたりまえ」にあることではありません。自分が「あたりまえ」と思っていることでも、実は誰かの恩を受けていることがたくさんあります。それに気付くか、気付かないかは本人の心の成長しだいです。子供たちは、様々な方々にお世話になりながら生活をしています。物でのお返しはできませんが、言葉で表現したり、行動で表したりして、小さな恩返しを少しずつ返していきたいものです。食事の時の「いただきます」「ごちそうさま」、何かをしてもらったら「ありがとう」など、感謝の気持ちを相手に言葉で伝え、自分の気持ちが素直に表現できるように、心の成長を期待いたします。

さて「ネズミの恩返し」というタイトルで次のような文章が書かれています。「ネズミは仲間から受けた親切を忘れず、恩返しをするらしい」という研究成果が、イギリスの科学誌に発表されました。これまで、ネズミが互いに助け合うことは知られていても、目先の利益がない場合は、仲間に見返りを与えることはない、と考えられてきました。ところが、飼育下にあるネズミの実験によると、以前、自分に好物のバナナをくれた相手を認識し、今度はより多くの餌のお返しをするという結果が出たといいます。こうした行動が、人間以外で観察されるのは初めてだそうです。

私たち人間も、たくさんの人や物、環境の恩恵を受けて生きてています。その中には、目に見える恩もあれば、目に見えない恩もあります。受けた恩になかなか気付くことができず、たとえ気付いていても、その全てにお返しができるわけではありません。「いつもありがとう」「おかげさまで」と言葉で表現するほか、行動に表して、小さな恩返しをしていきたいものです。

今年も残りわずかとなっていましたが、子供たちには、1日1日を大切に過ごし、感謝の気持ちをもって、友達と仲良く活動できることを期待しています。自分の命を大切にする行動をとり、心も体も成長してほしいと願います。今後も、地域・保護者の皆様には、本校の教育活動に対する深いご理解と温かいご協力を心よりお願ひいたします。

